

OPINION

中部経済新聞

ナヒゲーター

農業関連では、カザフスタンは2700万トの穀物を生産し、うち1530万トを輸出。タジキスタンは年間200万トを必要とし、170万トはカザフスタンから輸入。わが国の食糧のうちパンが占める割合は42%であるのに対し、世界平均は20%である。専門家は、小麦生産の増収分は人口増加によりすべて吸収されてしまつと警告する。キルギスタンは農業とエネルギーの戦略的バランスのため、水資源の配分を重視。わが国は種子の品質、旧態化した灌漑設備、備蓄設備不足と

日本への期待
世界各地から

其 186

いった課題を指摘し、加工産業へのより強力な支援を求めた。トルクメニスタンは持続可能な開発の基盤として、土壌と水資源の慎重な管理を強調した。

この地域全体で、基準のばらつきや供給の不安定が依然障壁であり続けており、より革新的な形で地域協力の必要性が浮き彫りになっている。世界水準でわが国は地政学的紛争、世界的なインフレ、消費材価格の高騰そして気候変動による圧力といった影響に直面する。外国からの送金

わが国と中央アジアの現状

タジキスタン (中)

減少や食料・建設資材のコスト上昇で、政府は関税規制や補助金措置を講じ、水力発電や持続可能な農業の支援に取り組む。こうした課題が農業での持続可能性につながる技術、建設でのエネルギー効率の高い資材、エネルギー分野におけるクリーンな発電といった近代化を推進している。

地域的に中央アジアは輸送拠点として台頭しており、カザフとウズベキは穀物供給源および貿易パートナーとなっているが、アフガニスタンは依然、安全保障や水資源管理

減少や食料・建設資材のコスに影響を及ぼす不安定要因である。支援国は、わが国の国家的優先課題、とりわけエネルギー効率化に同調すること余儀なくされている。しかし投資の偏重から、農業の脆弱性が浮き彫りになっている。気候や水資源への依存、土壌の劣化、農業への過度な依存という要因から、農業は最も脆弱な関連分野となっている。対照的にエネルギー分野は地域の力関係を再構築し、わが国電力への新たな依存関係を生み出している。

約15万人のある地区は、衣料関係を製造する単一企業に完全に依存していた。この企業は硬直的で中央集権的な経営体制に悩み、長期間危機に直面していた。熟練労働者不足、旧式灌漑技術、地域固有の土地利用専門知識の欠如が、水不足や綿花の収量低下を招いた。現場調査から、さらなる問題が明らかになった。農民は官僚主義に貴重な時間を奪われ、最低水準を下回る賃金により若年労働者は出稼ぎを余儀なくされ、高齢者、女性、子供は農業生産目標を達成できなかつた。

機械化戦略を選択したものの、政府経済部門の試算では燃料価格高騰から、投資回収期間が設備減価償却期間を上回るとされた。しかし明るい兆しも見られた。標準作業、目で見える管理板、カイゼン会議、簡易監査といったリーン方式が、ソ連時代からこうした文化に慣れ親しんでいた関係者の間で、すぐに支持を集めた。歴史を見ると綿花に加え、絹もソ連時代よりずっと前から栽培されており、どの家庭でも地域に根ざすクワの実を栽培していた。

【サノフバー・アユボフ、
リム中産連】
(月曜日に掲載)